

## 性とフランス語（１） 歴史と社会

Madame la professeur-フランス語における職業名詞の「女性化」

[http://lang.nagoya-u.ac.jp/~fujimura/files/gender\\_sympo\\_handout.pdf](http://lang.nagoya-u.ac.jp/~fujimura/files/gender_sympo_handout.pdf)


### フランス語の社会史

842: Strasbourg の誓約

1066: 英国征服

1539: l'ordonnance de Villers-Cotterets: 裁判の判決や訴訟手続きをフランス語で行う。François Ier.

1634: アカデミーフランセ ズの誕生

 La mission confiée à l'Académie est claire : « La principale fonction de l'Académie sera de travailler, avec tout le soin et toute la diligence possibles, à donner des règles certaines à notre langue et à la rendre pure, éloquente et capable de traiter les arts et les sciences. » (Article 24 des statuts.)

\*1635 年 枢機卿 Richelieu(1585-1642)の要請によって、イタリアのルネッサンス期のアカデミアを範として設立された。préciosité (注意して上品に振る舞い、洗練された言葉を用いること)、サロン、社交と学問の混合物/G. Dumézil & Cl. Lévi-Strauss: "Déclaration faite par l'Académie française" (1984/6/14)

Georges Dumézil (1898-1986)

印欧語族の神話比較を主力に、その構造概念はレヴィ・ストロースなど後の神話学者に多大な影響を与えた。神話や伝説の登場人物が、主権・戦闘・豊穡の三つの機能に分類されるという三機能を提唱した。

Claude Lévi-Strauss

1794: les Rapports Barère et Grégoire : 国語としてのフランス語

1919 :le traité de Versailles : 外交で用いられる言語としてのフランス語の力の最初の失墜。

1960 : Association des Francophones

1994 : la loi Toubon

Hagège, Claude (1996) : *Le français - Histoire d'un combat*, livre de poche

## これからのフランス語

EUにおけるフランス語の地位

高橋秀彰 (2000): 「社会言語学 (1): 欧州の言語計画」『海外言語学情報, 第10号』, p213-222, 大修館

第1層: デンマーク語, オランダ語, フランス語, ドイツ語, ギリシア語, イタリア語, ポルトガル語, スペイン語(カスティーリャ語), ノルウェー語, スウェーデン語,

第2層: バスク語, ブルトン語, カタロニア語, アイルランド語, ルクセンブルク語, ロマンズ語, ウェールズ語

第3層: コルシカ語, フェロー語, フリジア語, ゲーリック語, ガリシア語, ラディン語, ロマーニー語,

## 女性化の進められ方

フランス語の場合

1932-35年のアカデミー・フランセーズの辞書には、その前の1878年の版にはなかった *auditrice*、*avocate*、*pharmacienne chimiste*、*linguiste* など

言語政策としての女性化は、カナダのケベック州、ベルギー、スイスでは一足早くすすめられている。

フランス:

1997年12月: ジョスパン首相および、シラク大統領は、公的文書において *la ministre*、*la directrice*、*l'inspectrice* などと役職名を女性化して使用することに決める。ところが、「個人」を強く示唆する語を使うことと、文書の永続性のあいだに法的な問題が生じるおそれがあるという異議が法務官僚から提出される。

1998年3月: ジョスパン首相は大臣に対して通達を出した。用語・新語審議会(*commission générale de terminologie et de néologie*) にこの問題についての報告書の作成を要請したこと、INaLF(国立フランス語研究所)が、女性形名詞の作成マニュアルを作るようになったことを伝え、また、*la secrétaire générale*、*la directrice*、*la conseillère* など、すでに日常で用いられている語については、報告書の完成をまたずに、公文書で用いるように指示する。

1998年10月: 用語・新語審議会が報告書を出す。報告の内容は、公文書では女性名詞は用いず、男性名詞を用いるのがよいということである。アカデミー・フランセーズの Maurice Druon 氏。

1999年: INaLFが、*Femme, j'écris ton nom*「女よ、あなたの名前を書こう」を発行。職業名詞女性化のガイドブックができた。

2000年3月: 文部省は中央官庁の局長宛に、公的職務にある「女」に対しては名詞を女性化して用いるよう指示(B.O.E. N: 2000/3/9)。すでにその宛名人には女性化した役職名が並んでいる。

2000 年 4 月：レジオンドヌール勲章受勲者名簿(JO.no97, 2000/4/23) には、professeure (大学教授)、procureuse (検事)、recteure (大学区長) などの肩書きがほぼ 100%、女性化して書かれている。例外としては conseiller maître à la Cour des comptes 「会計検査院の…」がある。アカデミー・フランセーズ(Le monde: 2000/5:/31)

#### スペイン語の場合

「女性形冠詞 + 男性形名詞」、スペイン王立アカデミー会員や文法家は、男性名詞に女性形冠詞という組み合わせは許されないという非難：「女」には la abogada のように女性形で言及するというスペイン語の性質を尊重すべき。

その後、この女性形化は、非性差別的言語使用を追求していくための政策として、80 年代後半から 90 年代にかけ、社会・教育問題に携わる政府機関や Instituto de la mujer 「女性局」により勧められる。